

# はげたき

1991.7

NO.30  
神戸市立王子動物園

## パンダの思い出

40周年を迎えた王子動物園では、いま、その記念事業として、「動物とこどもの国」の建設が10月オープンを目指して急ピッチで進められています。このエリアに入れられる動物の中で何といてもメインになるのは、オーストラリアのブリスベーン市から贈られるコアラでしょう。この愛らしい姿が見れる日も近いと心待ちにしていますが、コアラと並んで人気動物といえば、ジャイアントパンダでしょう。いまから10年前に神戸で6カ月にわたり、愛嬌をふりまいたことをご存じの方も少なくはないと思います。

昭和56年に神戸で開催されたポートピア'81で、中国・天津市からはるばるやって来たパンダ、当時17才のめす「ロンロン」と7才のおす「サイサイ」の2頭、可愛い姿と愛らしいしぐさで1,600万人の人々を楽しませてくれました。この飼育には我が国初の日中合作チームを編成し、王子動物園からは私を含め延べ7人が飼育に携わりましたが、何といても大切な動物だけに気の休まることなく緊張の連続だったことが思い出されます。しかしながら、このような貴重な体験ができたことをむしろ感謝すべきだと思います。

当時まだ童顔が残り、あどけないしぐさで、いたずらっこだった「サイサイ」、おしとやかで色白の美人だった「ロンロン」、10年経った今でもその愛らしい姿は脳裏から消えることはできません。

今年5月に中国を訪問した時、天津動物園で「サイサイ」と再会しました。今や17才、童顔



天津動物園での「サイサイ」（本年5月）

こそ消え一段とたくましくなっていました。10年前と同じように、ちょこんと座り、耳をピンと立て、竹の葉を左手でにぎりながら食べる姿を、懐かしさのあまり時の経つのを忘れて見つめていました。「ロンロン」は数年前に老衰でこの世を去ったそうです。

可愛いだけでなく、稀少なこの動物は絶滅の危機に瀕しているといっても過言ではありません。この偉大な動物をこの世から消えることのないように祈りながら、「サイサイ」に別れを惜しみました。

神戸市立王子動物園長 谷岡正之

## もくじ

1. パンダの思い出	2
2. 「動物とこどもの国」開園近づく	3
3. 動物育児日記	5
1) アカカンガルーの人工保育	5
2) ミミナガヤギの育児日記	7
4. 「動物とこどもの国」の動物たち	9
5. 飼育うらばなし	10
1) モモイロペリカン調教	10
2) コウノトリ産卵	11
6. 動物なぜなぜ問答	12
1) ソウさんが涙を流してる?	12
2) はな(鼻)はだ面倒な問題ですが	12
7. 動物ものしり手帳	13
8. 動物科学資料館の手引⑨	14
9. トピックス	15

## 表紙写真

カバの出目男くん

写真撮影：谷岡正之

# 「動物とこどもの国」開園近づく

(動物たちとのふれあいを求めて)

市民の皆様から長年求められていました動物たちとふれあうことができる王子にとっては新しい園地約 8,000㎡が動物園の入口から西側に10月中旬オープンをめざして急ピッチで建設が続けられています。

さて、どんな新しい園地ができるのでしょうか。では開園に先だち、紙上でご案内いたしましょう。

「動物とこどもの国」入園ゲートは現在の園地中央の大フライングケージの西側に見えます。

まるでヨーロッパの田舎の家を思い起こす三角屋根のシックな建物、このゲートを通りぬけますと、目の前に大きくコアラ舎がせまります。(世界のアイドル、コアラがいる！)

このコアラ舎には前回ご紹介しました神戸市とオーストラリアの姉妹都市ブリスベン市から贈られて来た可愛いクィーンズランド種コアラが住んでいます。この動物舎はオーストラリア風の三角屋根で、やわらかい石材のふち取りが美しい雰囲気をかもし出しています。

さっそく観覧通路へ入りましょう、大きなガラス張の室内展示場があります。目の前に大きな木の枝が教本立ち並び、その木の又には餌のユーカリをおいしそうに食べているコアラがいます。この展示場の後側もガラス張りできており、外側にはユーカリの林が見えるように植られてあり、遠い日本の神戸にやって来たコアラたちが古郷のオーストラリアの森に住んでいるかのように思わせます。観覧通路出口にはオーストラリアの自然とコアラたちの説明を

している部屋があります。ここを出ますと屋外放飼場と分離飼育棟があります。放飼場にはユーカリ樹が日陰を作っており、その枝にコアラが見られるのは数年先の楽しみとしてください。(かわいいレッサーパンダやカワウソがいる！)

コアラ舎の西側には自然の岩場と樹木がマッチした環境の放飼場が二つ見えます。一つは皆様おなじみのコアラにおとらず可愛いレッサーパンダが暮らしています。

多分、おいしそうに竹を食べているか、木にぶらさがってお昼寝中の姿が見られるでしょう。もう一つはヨーロッパカワウソの放飼場です。岩の間から流れ落ちる滝をスベリ台にプールに飛び込む愛きょうものの姿をお楽しみください。

(自然環境を再現した森にリスや小鳥たち！)

カワウソとレッサーパンダ舎の間の大きな金網のケージに入りましょう。このケージはリスと小鳥の森に入るまでのダブルキャッチ構造となっています。というのは皆様がまるで六甲山の中で動物たちを間近に観察しながら散策できる広さ 450



㎡の通りぬけができる建物から動物や鳥たちが外に逃げ出せないような作りとしてあります。この森の始まりは高さ2mの岩の間から流れ出る谷川から、段差のある流れからせせらぎとなり、つり橋をすぎ、小池となる小川の兩岸に山桜、コナラ、ドングリ、松、山柀、ヤマボウシなどの六甲山系にある植物の繁った森となっています。木の枝をツーと渡ったり、餌場でくみを両手で持ち、ほっぺをふくらませている可愛いリスの姿が見られるでしょう。また、植込みの下からは小鳥の地鳴がチツツと聞えたり、春

には美しいさえずりが聞こえ、都会の真中の動物園にいることを忘れさせてくれるでしょう。

(カラクリ時計とつり橋がある！)

コアラ舎出口の南側にはレンガ造りの塔があり、三角屋根の上には風見鳥がくるくる回って風向きを教えてください。この塔は時計台と南側のふれあい動物ゾーンへと渡って行く「つり橋」につながっています。時をつげる鐘の音がのどかに響きますと、くじゃくの形をした時計の尾羽が開き、その中には幾化学模様のさまざまな動きものや、天使やゆりかごなどが動き出し、体が動きだすような楽しいリズムの音楽が聞こえ、メルヘンの世界へと導びいてくれます。時計塔前の広場はお友達との待ち合わせの場所ともなるでしょう。さあ、つり橋を渡りましょう。丈夫なワイヤーロープで作られた橋ですが少しゆらゆらするかもしれません。足元には滝がゴウゴウと音を立てています。目の下にはこれに続く流れが通り、ふれあい広場をせせらぎとなって流れて行きます。せせらぎの向こう側は白い牧柵にかこまれた緑の牧場で家畜たちがのんびり草を食べていることでしょう。

(ここには動物たちとのふれあいがある！)

つり橋を渡り次の塔の階段を回っておりると小動物舎の前に行きます。ここではウサギやモルモットをやさしい飼育係のお姉さんに抱かせてもらえますよ。後をふり返ってみてください。カカバ(中国産ポニー)のいる牧場と関西学院開学のときから建っている赤いレンガ造りの教会が見えます。どこか英国の田舎町にタイムス

リップして来たのではないかと思える落ち着いた気分となるでしょう。やさしく、ポニーの顔をさわってあげてください。やさしい目と目が合い、暖かい体温が手のひらに伝わり、思わず乗って走りたくなるでしょうね。次は小川の流れてそって緑の牧場の周りを散歩してみましょう。流れの広いところにはアヒル、ガチョウが浮かんでいます。散歩道には羊や山羊たちが皆様をお出迎えをしてくれるでしょう。人気者のモモイロペリカン、ハウラちゃんもヨチヨチ近づき、歓迎してくれるでしょう。このせせらぎは井戸からくみ上げられたつめたい水なので夏には流れて足を入れて遊びましょう。

(SLに乗って夢の世界へ！)

あッ、牧場の向こうにD51があるよ。プラットホームには車掌車が2両連らなって、今にも出発しそうです。車掌車に乗れば窓の外は緑の牧場です。さあ、メルヘンの世界へ出発です。プラットホームには駅舎風の小動物舎があり、ポニーやロバ、羊、山羊さんたちの寝室になっています。この中には飼育係のお姉さんの部屋もあります。動物たちについて色々質問してみてください。どんなお話ができるかな? 汽車からおりると「動物とこどもの国」の出国ゲートへと続きます。

「動物とこどもの国」紙上案内はいかがでしたか? オープンを楽しみに待っててくださいね。皆さんそろってのお越しを動物たちと共にお待ちしております。

(権藤真禎)



# 動物育児日記

## アカカンガルーの人工保育

いつものように扉を開け「おはよう！」とあいさつを済まし獣舎に入ると、奥の寝室から「グググ…グググ…」っと日頃あまり聞かない赤ちゃんの声。「アレ!？」っと思い目をやると…冷たくって横たわる母親の袋の内へ頭を突込んで、もう出なくなった乳首を盛んに吸っている2kgにも満たない赤ちゃんカンガルーの姿がありました。

1991年2月28日早期…この時から、私と獣医師2人による、カンガルーのイミちゃんの人工保育が始まったのです。

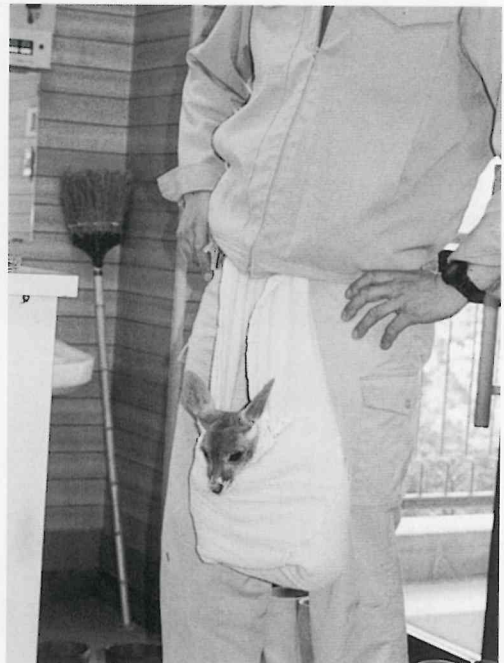
当動物園のカンガルーは、アカカンガルーという種類で、当時11頭で暮らしていました。その中に、イミちゃんのお母さんもいました。



1日中入っていると布の袋から顔をのぞかせるイミちゃん

カンガルーは有袋類と呼ばれるように、お腹に袋を持っており、その中で子供を育てるのです。そのため、赤ちゃんは信じられないぐらいの未熟児で生まれ、袋の中まで自力で移動し、そこで7~12カ月ぐらいすごします。イミちゃんは生後約7カ月、もうそろそろ袋から顔を出す練習をし始めた頃でした。ですから、まだまだお母さんのお乳が必要だったのです。

話はそれますが、当園のカンガルー達には、人間のお母さんやお姉さんが耳にしているピアスのようなイヤータッグと呼ばれるものを付けています。これは、病気の治療や親子関係を知るうえで名札のような役目をしています。イミちゃんのお母さんは0005番、イミちゃんは0013（13からイミとなりました）番の黄色のタッグが付いています。黄色はメスに、オスには白色が付いています。



日中こうして動物病院内をうろつくお母さんカンガルーの気持ちが味わえる？

さて、話はもどって、イミちゃんは、動物病院の獣医さん達の詰所内の大きな箱に毛布をつるし、電気アンカで暖房…というお母さんカンガルーの袋と似ても似つかぬ場所が生活の場となったのです。イミちゃん自体は、この毛布の袋を気に入ったのか3月17日までほとんどこの袋の中で生活していました。

当初は、注射筒にゴムチューブを付けた物でミルクを強制的に口の中に流してやる方法でしか飲んでくれません。そんなことを日に5回も行うのですから、イミちゃんもミルクは欲しいけど…といった具合です。

それでも、ほんの少しずつ体重も増え、割と楽にチューブをくわえてくれるようになってきましたが、毛布の袋から外に出ようとはしないのです。私達がミルクの時、袋から出すと、自分で袋に戻るのですが、決して自分で出ようとはしないのです。本当のお母さんの袋の中でも出入りの練習をする頃なのに、これでは、元気に跳ねまわれなくなってしまう…と考えた私達は、3月17日にペットサークルを組んで、その中に青草を敷きつめ、日中はなるべく袋から出してやるようにしたのです。すると、どうでしょう。袋の中では離乳の練習で与えた青草や野菜をほとんど食べなかったのに、盛んに青草を食べるではないですか…。これには獣医ともども驚きました。



### 3月17日からペットサークルの生活 青草を食べるイミちゃん

そんなペットサークルの生活に変わったイミちゃんですが、やはり憶病で、物音や違う人が来ると体を震わせておびえます。

そんな時には、毛布の袋を入れてやると、大急ぎで袋にとび込みます。

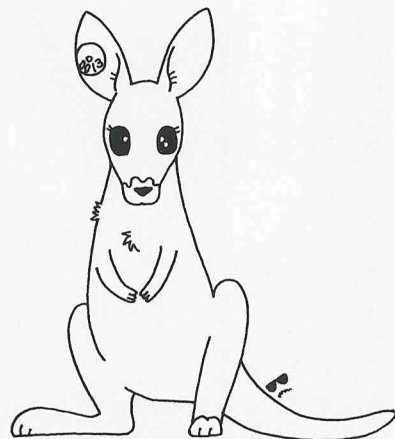
ミルクも、ペットサークルの生活に変わってから自分でチューブに吸い付いて飲むようになり、飲みっぷりもレディーだと云うのを忘れさせるほど豪快です。



現在では、体重も 3,300g に増え、おてんば盛りとなってきています。

私達はイミちゃんの将来を考え、なるべく、人慣れさせず群れに戻してやるため、遊んでやりたいのを我慢して、ミルクの時以外は極力接しないようにしていますが、まだまだペットサークル暮らしが続きそうです。

近い将来、他のカンガルー達に混じって黄色のイヤータッグに0013と書かれたカンガルーがいたら、やさしく「イミちゃん…」と呼んでやってください。  
(川上博司)



# ミミナガヤギの育児日記

3月5日、ミミナガヤギの赤ちゃんが生まれました。当園では2例目の出産です。

ミミナガヤギの原産地はパキスタンで、名前のおりとても長い耳をしています。

普通は2～4子出産しますが、当園では今回1子だけでした。出産するまで全く妊娠している様子もなく、赤ちゃんが生まれた時は本当にびっくりしました。小屋の中（寝室）でメスに寄りそうように座っている姿を見ていると本当にぬいぐるみのおもちゃのようでとてもかわいいのです。

出産後あまり時間が経過していなかったため、メスをあまり刺激してはいけないと思い、その日は小屋を閉めきって、そっとしておくことにしました。翌日、朝一番の様子を見に行くと、まだ少し足元はフラフラしてはいましたが、立ち上がり、メスの周りを歩いています。メスは子供を取られるのではないかと心配し、子供から離れようとはしません。とにかく、元気な姿を見て安心しました。今回出産したメスは子供に対して、とても面倒見が良く安心して見ることができ、私としては何もすることがないほどでした。

3月8日、何事もなく、赤ちゃんは順調に育ち、1日、1日足もしっかりしてきました。今までは座り込んでいる時間の方が多かったのですが、立って歩き回っていることの方が多くなり、メスもかなり落ち着いてきました。まだ性別が分かっていなかったため、落ち着いたところを見計らって、少しの間子供をつかまえて確認したところ、メスであることが分かりました。その間、メスは少し心配そうでしたが、怒ってかかってくることもありませんでした。

また、小屋の中を2つにしきり、半分をメスと子供の部屋にし、残りを父親と前年に生まれた子の部屋にしました。赤ちゃんヤギと母親の部屋に敷ワラと乾草を入れ、天井からは遠赤外線電球を取り付けて保温することにしました。また、この日、生後初めてお乳を飲んでるところが確認できました。

3月9日、この日からひんぱんにお乳を飲む回数が増えてきて、また、活動も活発になり部屋の中を歩き回るようになりました。色々な物

に興味を持ち出すようになったのもこの時期からです。生後1週間もすると少しずつではありますが、乾草も少し口にするようになり出しました。

これまでは、母子ともに順調にきているので、このまま何事もなく育ててくれたらと思います。

3月21日は王子動物園の開園記念日、この日からミミナガヤギの子供を一般公開することになりました。

当日は、羊を展示してある同じ囲いの中に母子を入れて公開したのですが、メス親が突然の環境の変化にお乳を子供に与えなくなったため、再び元の放飼場に戻しました。メスも子供も今までいたところの方がやはり落ち着けてとてもよいようです。子供は何を見ても珍しいものばかりなので、すぐ母親のそばを離れて走り回ります。母親が心配そうに追い回しています。

今では、エサも普通に食べるようになり、長い耳を左右にゆらしながら歩き回って、愛らしい姿を私達に見せてくれます。これからも、何事もなく元気に育ってほしいと思います。

（麻田一夫）



# 「動物とこどもの



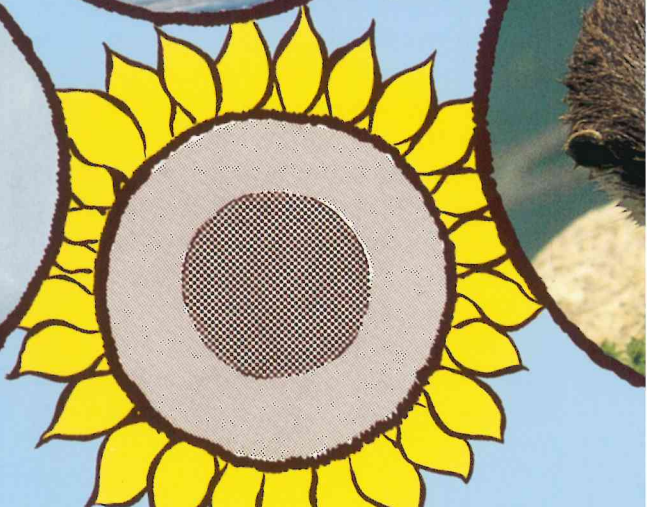
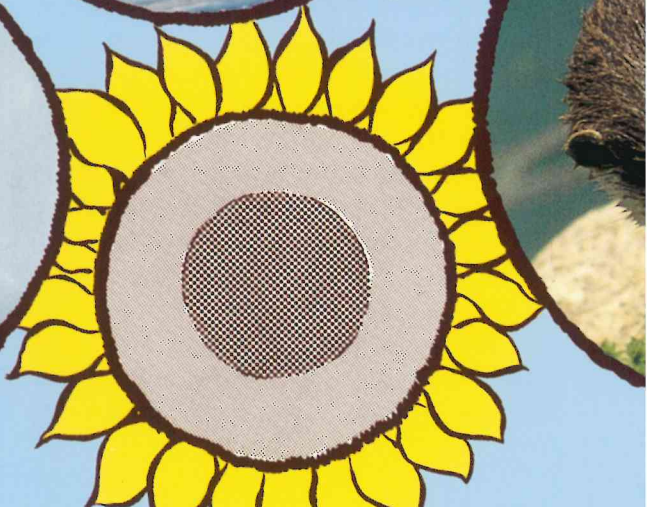
カカバ



アカリス



コウライリス

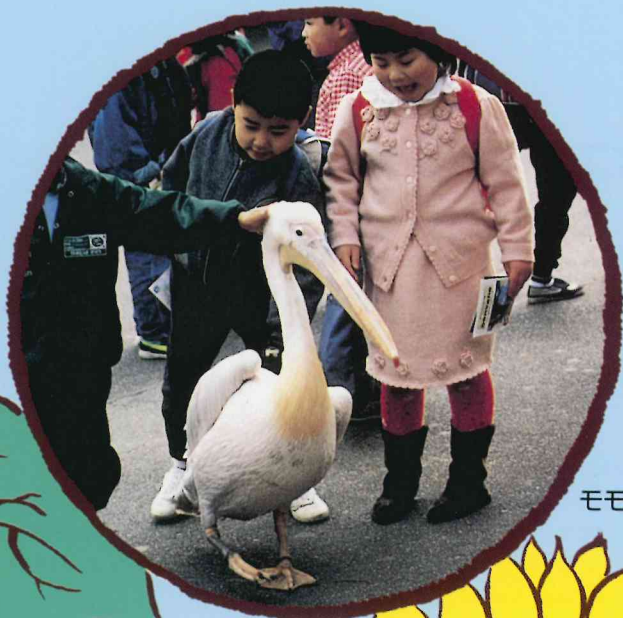




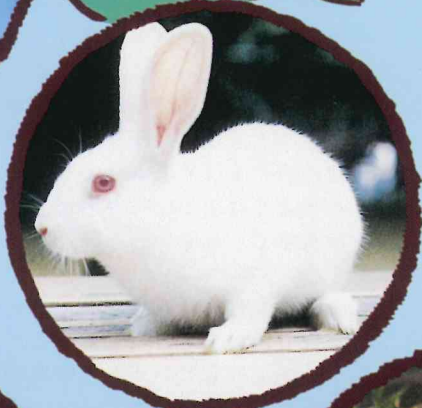
# 「国」の動物たち



コアラ



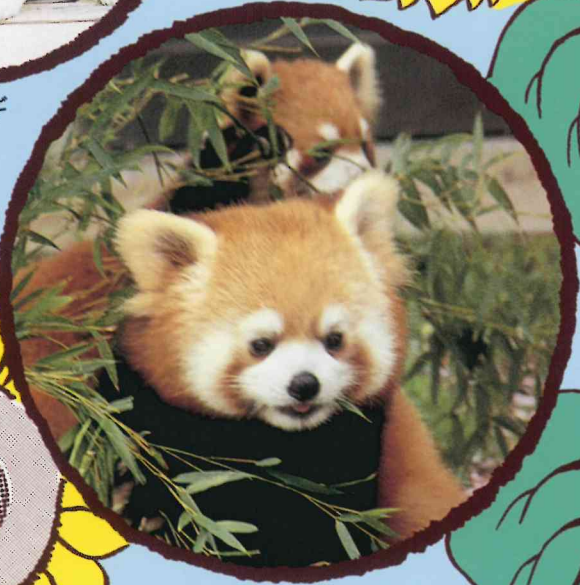
モモイロペリカン



カイウサギ



ローパカワウソ



レッサーパンダ



# 飼育うらばなし

## モモイロペリカン調教

「ペリカンという動物から想像することは？」と聞けば大体の人が、のどに大きな袋を持った鳥であるとか、空を飛んで幼稚園に遊びに行く山口県の「カットくん」を連想したりします。

なかには宅急便のカンバンを思い浮かべたりして、どんな動物であるかはすぐ分かることでしょう。

いま王子動物園では、そのペリカンが動物園の中を自分の庭のように悠々と散歩している姿を見ることができます。そのあまりに堂々とした姿は、初めて身近に見た人達を、一瞬何が起こったのかと驚かせたり、思わず大きな声を出して喜ばせたりして、小さな人気者になっています。

そんな小さな人気者の名前はハウラ。5才になる、女の子のモモイロペリカンです。彼女は、訪れた人達が歓声をあげて寄って来ようとしても、また彼女のそのふわふわとした羽毛に魅せられて触ろうとしても、全くおかまいなしといった具合で、自分の体をきれいに毛づくろいしては、時々子供達に、やさしく口ばしであいさつしたりと愛嬌をふりまいてくれています。

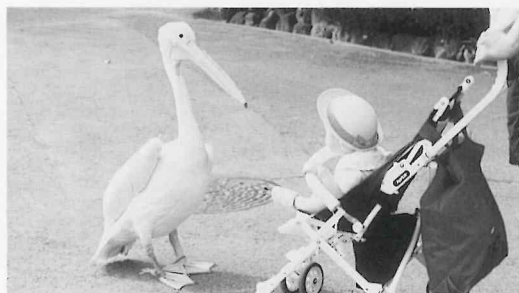
もともと彼女は、他のペリカン達と違って、生まれてからずっと人間の子供のように育てられてきたので、人間をそれほどこわがったりはしなかったのですが、10月6日に、王子動物園へ初めてやって来たときには、さすがに見知らぬ所へ連れてこられたショックからか、おどおどして落ち着かない様子でした。そこで、そんな彼女を、まずは安心させるために、なるべく彼女と多くの時間を一緒に過ごしては、よくし



ゃべりかけて、同時に驚かさないと心がけました。こうして、彼女は徐々に落ち着き始めたので、次にアジを手から直接与えるようにして、嫌がって逃げないようなら、体を触って徐々に慣らしていくことにしました。すると日に日に活発になりだし、私が姿を見せると、翼をバタバタとはばたかせては、グワグワと独特の声を上げてあいさつをしてくれて、寄って来るようにまでなったので、思っていたよりも相当早く、部屋の外へ連れ出すことにしたのです。

11月7日、それまで見たことのなかった景色を目の前にして、彼女は少し戸惑った様子できょろきょろしていましたが散歩を日課として続けると、1ヶ月ほどで外の雰囲気にも慣れ、散歩の道順も覚えるほどになりました。12月になってからは、散歩の距離を延ばして、いよいよ訪れた人達の中へも連れて歩くようにしましたが、それまでと特別変わりなく散歩することができました。逆に、今でもそうですが、人間の方が、驚いたり、大声を出したりと興奮しており、彼女にしてみれば「何をそんなに興奮しているの？」と言いたそうでした。

度胸満点な彼女の悠々とした散歩は、新居になる「動物とこどもの国」ができるまでですが「動物とこどもの国」では、きっと他の仲間達と一緒にあって、訪れる人達をもっと楽しませてくれることでしょう。 (島田幸宜)



# 飼育して25年目コウノトリが産卵

コウノトリを飼育して25年目、4月10日、産卵を確認したときの嬉しさは、今も心に残り私の頭から離れません。

例えば、飼育を始めたのは昭和41年でした。兵庫県鳥でもある。コウノトリをなんとか繁殖させようと、日本では初めて中国の北京動物園と動物交換を行った際、当園が贈ったペンギンの代わりに6羽のコウノトリを飼育したのが始まりでした。

当時は、設備も良くなく、カンガルー舎を仕切って羽を切って収容しました。

まもなく、ケージを作ってもらい、飼育をしたのですが、仲が悪くなって分離して飼育しなくてはならないことが起きたのです。

オスが、メスを追いかけて回して、背中をつついてメスが瀕死状態になったのです。

そこで、ほかの「メス」を入れると、どうでしょう。一緒にして十分間もたつたない内に「メス」が背中を一突きされて死亡したのです。

それからは、従来以上に慎重に飼育することにしました。

いきなり大きなケージに入れず、まず、狭いケージに1羽ずつ入れて、見合いをさせることにしました。

そして、隣同士が盛んにクラックリングをしますと、まず大丈夫という経験を得たので、大きいケージに移しました。ところが、一緒にして1カ月頃に再び仲が悪くなり分けたこともありました。

いまカップルになっている「オス」は、十年前にケージ内で、上くちばしを根元から5cm程を残して折れてしまう事故がおきました。

私は、このコウノトリは、もうだめだと思いました。

しかし、獣医さん、飼育係の努力と研究により人工のくちばしを付けることにしました。

付け替えること10数回、現在付けているくちばしは、1年たっても、生活していくうえにおいて支障ないほど、うまくできています。

よし…これでいけると判断して、中国天津動物園からやって来た「メス」と見合いさせたところ、今年2月すぐ仲良くなり、カップルが誕

生したのです。

コウノトリを長く飼育してわかったことは、この鳥ほど、気むずかしく、性格の強い鳥はほかにはないような気がします。

カップルになるには、まず相性関係をよく見極めることが必要だと思います。

今度産卵したカップルを毎日見ていると今までのいろいろなことが思い出されます。

鳥は、卵を生んだ時点では、繁殖とはいえません。親鳥がうまく抱き、フ化してこそ初めて「繁殖した」といえるのです。

「オス」がうまく交尾をしていれば、25年目でヒナの顔を見ることができたのですが、今回は、飼育係の誰も交尾を確認していません。

なんとか、「繁殖してくれよ…」と、心の中で叫びながら、毎日、コウノトリ夫婦の観察を続けてきましたが、「ひなのフ化する予定日の5月15日になってもフ化しませんでした。

「来年は頑張ってくれよ…」声をかけると、その言葉に答えるように、クラックリングが返ってきたのです。

(鈴木 忠)



# — 動物 <sup>なぜ</sup> <sub>なぜ</sub> 問答 —

## ◆ゾウさんが涙をながしてる？

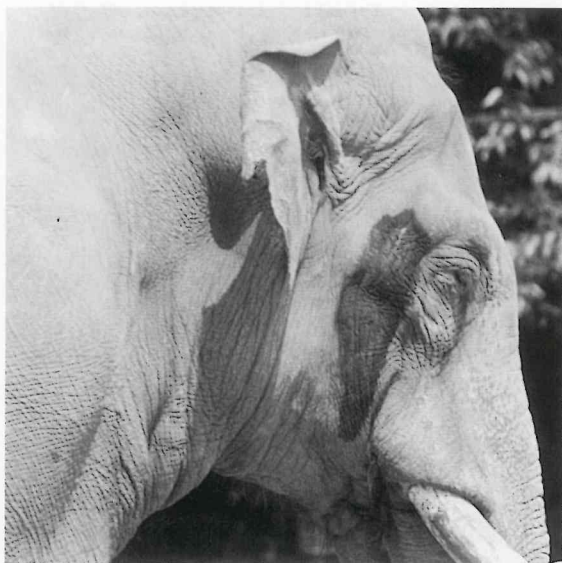
子供の日のゾウ舎の前で、「ゾウさん、かわいそう。ほら、泣いてるよ。どうしてお父さんとお母さんは別々に分かれているの」という親子の会話が聞こえてきました。

ゾウは目と耳の中間からコーラルのような黒くてネバネバした匂いの強い液を涙のように流しますが、年に1、2回顔の半分が黒くなるぐらい、たくさん出る時期があります。今年はゴールデンウィークの頃が一番激しかったのです。このようなときにはイライラし、怒りっぽくなり、暴れまわったりするのです。飼育係にも反抗しますし、普段仲良しのゾウ夫婦も、いがみ合うことになるのです。

このような状態の時のゾウをムスト(狂暴期)のゾウといっています。

この液は何のためなのか？学者は一生懸命研究していますが、今のところ「この匂いでお互いを確認するため」または「性的なもの、すなわち交尾期を表すため」といわれています。

(梯 英喜)



## ◆〈はな(鼻)はだ面倒な問題ですが…〉

ゾウの子どもは親と同じように長い鼻を持っていますが、生まれてしばらくは鼻を上手に使うことができません。では、どうやってお乳を飲むのでしょうか？そこで問題です。

- 1) お母さんが自分の鼻で飲ませてあげる。
- 2) 上手に使えるまでがまんして飲まない。
- 3) 口を直接おっぱいにつけて飲む。

正解は3)。

ゾウの鼻はとても器用に動きます。豆一粒を鼻先でつかむこともできますし、水をポンプのように吸い上げて口の中に運ぶこともできます。でも、子ゾウの鼻は親と比べるとまだ細くて短く、自由に動かすことができません。もちろん、鼻を使ってお乳を飲むこともできません。ところが、この小さな鼻をおもいっきり頭の方へめくり上げると、つけ根には広くて大きな口があります。ゾウの子どもは、お母さんのおっぱいをこの口いっぱいにくわえこんで、お乳を飲むのです。

(村田浩一)



# 動物もの知り手帳

## ～動物の五感～

よく小説の中で、私の第六感がヒラメイて、その問題が解決したというような言葉に出合います。第六感とは、私達が科学的に立証されていない領域の感覚のようです。

40年前は五感をもってすべての感覚器官と考えていたようです。そして、人間は物事を科学的に立証するには視覚を最も重要視していました。それを裏付ける言葉に「百聞は一見に如かず」ということわざがあります。しかし小鳥の美声は「百見は一聞に如かず」であると思います。すなわち、楽譜を見て、メロディーを想像するより、美声を一度、聞いた方が早いと思います。味についても、触覚についても、匂についても同じです。それでは動物界ではどうでしょうか、第六感（方向感覚）どころか、第七感（超音波探知感覚）も、第八感（磁気探知感覚）もあります。ただ、ここでいう第六感、第七感、第八感というのは科学的に解明された、感覚のことです。

動物達も生きていくために多くの感覚器官を大いに活用しています。カンガルーは生まれてすぐ、役立つのは触覚と重力探知のみです。目も、耳も、鼻も未熟で機能しない。カンガルーの赤ちゃんは、触覚と重力探知感覚によって誤りなく、母親の袋の中に入っていくとされています。この感覚には驚かされます。また、コウモリは超音波により方向を探知し、獲物を捕らえる能力もっています。

暗闇で高速で飛び回るには超音波を探知するのが最適なのでしょう。イヌの聴覚が人より優れているのも事実です。主人の足音を長年共にいる夫人より早く聞き分けます。耳を動かす筋肉も人間より8本多いのです。ネズミに至っては10万ヘルツの音まで聞き取れる能力を持っています。彼らは、我々が沈黙の空間と思っているなかで、数多くの音を聞き、生命維持のため種々の判断をしているのです。こうして見ると、なにげなく見る動物の中に高度な感覚が活発に働いていることに気がきます。オオカミの行動、ゾウの行動にも我々は、分からない臭覚情報が入

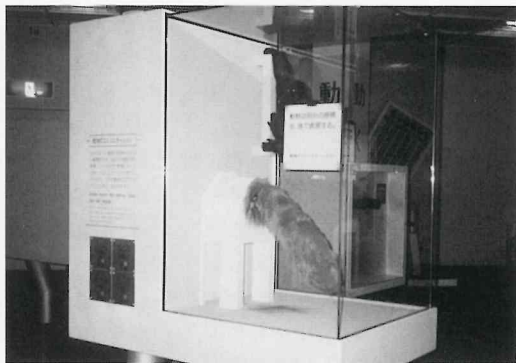
っているということでしょう。この動物の能力を人間が正確に理解できれば生命の神秘も解明されるかもしれません。人間社会も今より豊かで、安全なものになるでしょう。水の汚れも的確に測定し、機械の異常も正確に判断し、事故防止に役立つのではないのでしょうか。動物の感覚を動物に苦痛を与えることなく自由に利用できれば、人間と動物が楽しい生活を過ごすことができると思います。そのためには希少な動物を大切に育て、後世の人々が動物の感覚を完全に解明できるまで、種の保存に努めるべきであると思います。この40年間の科学技術の発展を考えると、特に野性動物の保護の大切さを感じます。

（加納 至）



# 動物科学資料館の手引⑨

～楽しく見るために～



## ◆動物の心とからだ (3)動物の感覚

前回にひきつづき、動物のすぐれた感覚器官と、動物の心の中をちょっとのぞいてみましょう。

### 1. コウモリの聴覚

コウモリは暗やみの中を木の枝や電線にぶつかることなく、自由に飛ぶことができます。また、目かくしをしてもうまく飛ぶことができます。どうやらコウモリは目ではなく何か特別な器官を使っているようです。このコーナーではその秘密を超音波センサーを使って紹介しています。

超音波は人の耳には聞こえないとても高い音で、コウモリは飛ぶ時、この超音波を口や鼻から短く区切って出し続けています。そして、それが物に当たってはね返ってくる音を耳で聞き取り、物のある位置を正確に測ることができます。また、飛んでいる虫を捕る時もこのように超音波を使い、いったん虫を発見すると超音波が頻繁に出され、正確に虫をとらることができます。

このコーナーでは、超音波の届く範囲内に人が入ってくると、パネル内の赤ランプがゆっく点滅します。さらにパネル内のコウモリに近づいていくと点滅が速くなり、コウモリが頻繁に超音波を出していることを表しています。このように、コウモリは目ではなく、超音波を使って耳で物を見ていると言うことがわかりいただけたでしょうか。

### 2. マーキング

動物は「ここはオレが暮らしている場所なんだ。邪魔しないでくれ。」と自分のなわばり(テリトリー)を示すのに目じるし(サインポスト)をつけます。このようにしるしをつけることを

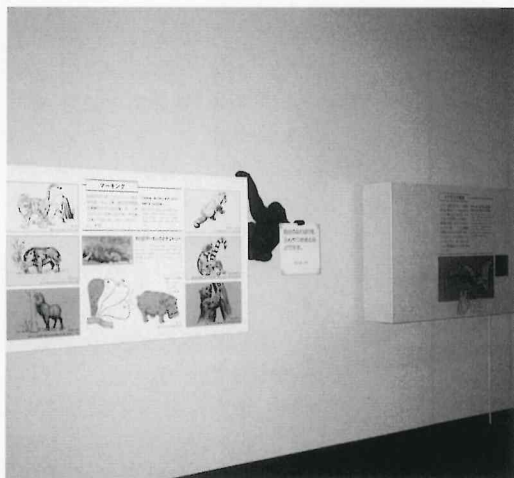
マーキングと言います。マーキングにはふんや尿、また身体にある特別な臭線などから出る臭いを使ったり、木や岩をひっかいてつめ跡を残したりする方法があります。このコーナーでは、カバをはじめいろいろな動物のマーキングの方法をパネルで紹介しています。マーキングは動物同士が無駄な争いを避け、仲よく暮らしていくのに大切な役割をしています。

### 3. 動物のコミュニケーション

「あれっ！犬のしっぽかな。」いいえ、オオカミのしっぽです。このコーナーではしっぽの動きによるオオカミの気持ちをお教えます。犬と同じようにうれしい時にはオオカミもしっぽを振ります。4つのボタンを押してオオカミの気持ちを探ってみましょう。

人にとっても大切なことですが、動物の世界でもお互いうまく暮らしていくには仲間の気持ちを知ることが大切です。ことばを持たない動物たちは、顔の表情、しぐさ、しっぽの動きなどで相手に気持ちを伝えます。気持ちや考えを相手に伝えることをコミュニケーションと言いますが、他の動物のコミュニケーションの方法もパネルで紹介しています。

動物の行動によって動物の気持ちを知ることには楽しいことです。園内の動物たちもじっくり観察してみてください。君にも動物の声が聞こえてくるかもしれませんよ。(山本範子)



# トピックス (平成3年3月～3年6月)

## ◆春の催し物

- 春休み動物アニメ映画大会 (3月26日～31日)  
動物アニメを1日6本上映し、6日間で2,655名のお客さんでにぎわいました。
- 『旧ハンター住宅』春の内部公開 (4月1日～30日)  
神戸の異人館の中でも最大級の建物である「旧ハンター住宅」の内部公開を行い、16,364名の入館者がありました。

## ◆開園40周年記念特別展 『王子動物園今昔物語』

動物科学資料の特別展示室で40周年を迎えた王子動物園の開園当初から現在までの移り変わりを写真パネルや映像、かつてのスター動物のはく製、古い新聞の切り抜き、その他の資料で展示しました。(3月21日～9月3日)



## ◆海外の動物園との動物交流

平成2年6月に、中国・天津動物園から、マヌルネコを1頭贈られ飼育中ですが、5月に技術指導のため訪中した谷岡園長に、さらに1頭贈呈の申し出があり、奇贈を受けました。マヌルネコは、シベリア南部、中国四川省、チベット高原に生息しているネコ科の動物です。体全体、長い毛で覆われ、大きな目と体をした、かわいいネコです。



## ◆コアラの受贈に関する協議のため、オーストラリアのブリスベーン市から調査団が来園しました。

(3月12日～19日、6月11日～18日)

オーストラリアのブリスベーン市から、2回にわたり、コアラの受贈に先だって調査団が来園し、エサとなるユーカリの栽培状況、飼育計画、コアラ舎の設備関係、輸送時期・方法等についての協議と現地視察が行われました。



## ◆新しい仲間たち

春から夏にかけて新しい仲間が誕生しました。ミミナガヤギ (3月5日)、ベニガオザル (4月23日)、フタユビナマケモノ (5月9日)、ユキヒョウ (5月10日)、ニホンカモシカ (5月30日)、ヨーロッパフラミンゴ、フンボルトペンギン、オシドリ、ベニイロフラミンゴ、タンチョウ、カリフォルニアアシカ (6月8日)、フランソワルトン (6月9日)

# 切手の中の動物たち オーストラリアの動物



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫

- |          |        |         |            |
|----------|--------|---------|------------|
| ①コアラ     | ②カモノハシ | ③カンガルー  | ④フクロオオカミ   |
| ⑤ウオンバット  | ⑥ハリモグラ | ⑦フクロギツネ | ⑧チビフクロモモンガ |
| ⑨フクロムササビ | ⑩フクロネコ | ⑪ブーラミス  | ⑫ワラビー      |

## ◆編集後記◆

園内は今テンヤワンヤ。建設現場では職人さんたちも血相を変えて飛び回っています。飼育係もコアラの受入れ準備やふれあいゾーンの準備にオオワラワ。入園者のみなさんにふれあう動物たち（カカバ、ロバ、ペリカン、ウサギ…）も猛烈特訓中。只今、「動物とこどもの国」の開設に備えて職員も動物たちもみんな頑張っています。



はばたき 第30号

平成3年7月20日発行

編集：神戸市立王子動物園  
TEL. (078)861-5624

発行：財神戸王子動物園協会  
TEL. (078)801-5711  
神戸市灘区王子町3丁目1

印刷：梶原出版印刷合資会社